

週刊金曜日

7|8₂₀₁₁

854号
毎週金曜日発売
定価580円

放射能は
どこに落ちた

東京から福島約520カ所の汚染濃度を測定
火山学者が計算した拡散マップ

——プルトニウムが、米国の西海岸や他の地域でも検出されました。カリフォルニア州では、過去最高値の四三倍という数値（〇、〇〇一三ベクレル／リ）です。

プルトニウムは米国以外でも、私が住む英国でエアフィルターから検出されているのです。このことは、福島第一原発から飛散したプルトニウムの粒子が、今や全世界規模で広がっていることを意味しています。これに伴って、大気中の放射性物質による汚染濃度に比例するがんの疾病率や出産への悪影響を含む、健康悪化の比率が上昇していくことでしょう。

——米国の毒物学の専門家で、チェルノブイリの研究家でもあるジャネット・シャーマン博士は、福島第一原発事故後に米西海岸のサンフランシスコやシアトルなど大都市で、乳児死亡率が三五％も上昇したことを指摘しています。これについて、福島原発事故との関連でどのようにお考えでしょう。

プルトニウムとの関連性については、大いにありうることでありと考えています。私はこうした乳児死亡率のみならず、出産における男女比率の変化をチェックするため、米国西海岸の特定の地域（シアトル近郊のキング郡ですが）におけるデータを提供するように申し込みました。おそらく入手するにはこれから数カ月かかるでしょう。

乳児死亡率については、冷戦期の一九六〇年代における連続した核実験の後に、上昇したという事実があります。しかし被曝量という点では、当時の方がより高かったのです。

要注意の放射性物質

——もしプルトニウムがこれほどまで広範に飛散したのであれば、福島第一原発の近辺のみならず、福島県全体、そして県を越えて東京や日本全体にどこまで拡散したのかという恐れが生じるのでは。

私は、福島と東京で使われた車のエアフィルターを入手しています。

特にプルトニウムに限定しなくとも、ここからテルルなど高レベルの放射性物質を検出しました。そのデータを元にして、私が四月に欧州委員会で発表した論文で、私は福島第一原発から半径二〇〇キロメートル以内で、今後一〇年間に二〇万人以上の新たながん患者が出るだろうと予測しました。

現在まで、残念ながらこの見解を変えようとする要素は一つないと思っています。むしろ実際には、その時期に私が考えていたこと、あるいはテレビで私が発言した内容、つまり危機はまだ続いており、収束には程遠い状態であると発言したのですが、それよりも、事態はより悪化しているのです。

——つまり、プルトニウム以外にも要注意だ。

もちろんです。私は、同じ吸収量でもベータ線やガンマ線より臓器、組織に与える影響が高いアルファ線を出す放射性物質として、プルトニウムだけがウランニウムなどと比較し

て格段に危険であるとは考えていません。危険という点では、トリウムやストロンチウム90、炭素14、テルル132などもそうです。このテルル132は、例の日本の車のエアフィルターから検出されているのですから。

——日本以外で、世界的に福島第一原発の事故の影響はどのようなものなのでしょうか。

欧州については、影響は限定され、放射性物質もなかなか検出しにくいと思います。顕著な影響があると思えば、先ほどから出ている西海岸を中心とした米国、そして韓国や中国といったアジアの地域、そしてハワイやマリアナ諸島など太平洋の諸地域ではないかと考えています。

——かつてスリーマイル島原発事故の復旧を手がけた原発エンジニアで、現在CNNなど米国のテレビ放送で、今回の日本の事故について解説者として登場しているアーノルド・ガンダーセン氏は、四月に東京とシアトルの住民が、セシウムやプルト

クリストファー・バズビー氏インタビュー

米国まで広がったプルトニウム

太平洋のグアムやハワイのみならず、米国西海岸まで猛毒のプルトニウムが観測された。では日本では、どこまで事態は深刻なのか。

ニウム、ウラニウム、ストロンチウム等の高放射性粒子 (Hot Particle) を吸い込んだと分析しています。

そのデータについては、私も見ています。日本から入手した車のエアフィルターに基づいて私たちも独自の測定をしたのですが、同じ結果を示していました。

——一九八六年に起きたチェルノブイリ原発事故も、周辺国に大規模な放射能汚染を広げました。福島の一スとの類似点は何でしょう。

類似点については、二つの原発事故とも、原発を運営する管理者と政府当局が、起きたことについてウソを言ったということです。実際は、旧ソ連政府の方が日本政府よりも事故への対応がより機敏であり、事故現場から半径三〇キロメートル以内の住民を避難させるのも、旧ソ連政府の方がずっと素早かったのですが。

同時に二つの事故とも、核爆発があったという点です。現時点で私たちはチェルノブイリで核爆発があった事実を知っています。福島第一原発では水素爆発がありました。三月一四日の三号機爆発については、核爆発であったと私は信じています。どちらであったにせよ、爆発後の放射性降下物には大きな違いは存在しません。

チェルノブイリよりも深刻

——二つの事故の相違点については、

福島第一原発3号機。バズビー氏は核爆発が起きたと主張している。(3月21日撮影。提供/東京電力)



チェルノブイリの場合、核燃料は約二〇〇トンしかありませんでしたが、福島の場合は、大量の放射性物質が高空に放出されました。土壌の放射能汚染に関しても、事故現場から一〇〇キロメートル圏外では、福島の方がチェルノブイリよりずっと深刻で、被曝量もより高いのです。しかも今回の福島での事故は、三五〇〇万人が住む首都圏も汚染している。とりわけ事故現場から半径二〇〇キロメートル以内の人口は、一〇〇〇万人もいる。チェルノブイリ

の場合は、大規模な人口密集地帯から離れていましたから、福島の方が深刻です。

——福島第一原発事故の現状については、どのようにお考えですか。

繰り返しように、現在でも最悪事態から抜け出たとは、到底考えられません。今後は、以下のような可能性があるとみています。

①原子炉が、作業員が近づけない状態になり、そのまま取り残される。もしこうなると、短期間に原子炉の温度がどんどん上昇し、おそらく約

二〇〇〇トンある核燃料と使用済み燃料の大部分から放射性物質が放出される。その結果、日本の北半分が汚染される。ただ、米国や欧州ではそれほどの汚染の拡散はないのではないか。

②原子炉が、注水によって冷却され続ける。溶融した燃料棒の表面が冷却されている限り、放射性物質は放出されないが、汚染水は排出され続ける。それは海洋に流れ、東日本の海洋全域を汚染する。そして魚介類が放射能で汚染される——という可能性です。

——国際社会が、依然危機的な状態にある原発事故に対してできることはないのでしょうか。

私は、この惨事を生み出した世界の原子力産業が事故の責任を取るべきだと思っています。

(注) クリストファー・バズビー氏(六五歳)は英国の著名な化学・物理学者で、低量被曝や体内被曝の危険性を以前から指摘してきた。「放射線の危険性に関する欧州委員会」の科学議長として、この四月に発表した福島第一原発事故に関する予測評価レポートで、「事故現場から半径一〇〇キロメートルの住民三三〇万人のうち、二〇二二年から二〇二一年の今後一〇年間で、一〇万三三三九人のがん患者が出る」と算出している。また被曝を避けるため、生徒の疎開を求める親らの福島地裁郡山支部に対する六月の仮処分請求では、それを支持する声明を発表した。

Christopher Busby/英ウルスター大学客員教授。

インタビュアー/乗松聡子・在カナダ。ピース・ワイロソフィー・センター代表。
訳/成澤宗男・編集部